

言葉の旅 スペイン語のバリエーション(2)

キューバ

私たちの「言葉の旅」では今回からカリブ海諸国を訪れます。キューバ、ドミニカ共和国、そしてアメリカ合衆国の自治領プエルトリコです。どの国でもカリブ海の素晴らしい自然と陽気な人々に出会い、また魅力的な響きのある独特なスペイン語に接することができます。



【写真1】La Habana の中学生

旅先...キューバ

「キューバ」は Cuba とつづり、スペイン語では「クーバ」と発音します。「ハバナ」も Habana とつづり、h は発音しないので「アバーナ」、冠詞 La がついて La Habana「ラバーナ」となります。

厳しい経済事情の中でも高い教育水準を維持し、文化やスポーツの育成に力がそそがれています。スペイン語研究の世界では、ハバナの科学アカデミーが全島をくまなく調査した『キューバ言語地図』(Atlas lingüístico de Cuba)が完成が間近だというニュースを聞きました。東部のサンティアゴ・デ・クーバでは社会言語学(sociolingüística)の研究が注目されています。

さて、Cuba に旅行する機会があれば野球観戦はいかがでしょうか。サンティアゴ・

デ・クーバチームのキャプテンのパチェコ(Antonio Pacheco), 同じチームのホームラン王キンデラン(Orestes Kindelán), ハバナのチーム, インドゥストリアレス(Industriales)が誇るショート, メサ(Germán Mesa)や三塁手バルガス(Lázaro Vargas)など一流選手のすばらしいプレーが, カリブのスペイン語が充溢する球場の熱気の中で観戦できます。シーズンは11月から5月でどの球場も無料に近い入場料です。

去年の私のゼミでキューバのスペイン語を取り上げたとき, 「フルカウント」(*En tres y dos*. Instituto Cubano del Arte e Industria Cinematográficos)という映画を見ました。野球選手の物語です。「フルカウント」は, 「ツーストライク・スリーボール」ですが, スペイン語では(英語と同様に), 「スリーボール・ツーストライク」*tres y dos* という順番です。その映画の冒頭にあるハバナ・ラテンアメリカスタジアム(Stadium Latinoamericano)の実況中継をお聞き(お読み)ください。

... **Batea** Roberto Rodríguez en la **cuenta** de dos **strikes** y una **bola**, un paseíto fuera del **box**. El derecho Lázaro de la Torre, se coloca de espalda al **home**. Ya va entrando de frente a la **lomita** buscando la **seña**... Se lleva las manos sobre la cabeza, impulsa, viene el **lanzamiento**. Rodríguez saca **fly** por **tercera base**, esto se va a acabar, se acaba... ¡se acabó el **juego de pelota**!, ... ¡una impresionante victoria del **equipo Industriales**!

「バッター, ロベルト・ロドリゲス。カウントはツーストライク・ワンボール。バッターボックスを離れました。右腕のラサロ・デ・ラ・トーレはホームを背にしました。今マウンドに上り, ホームに向いてサインをうかがっています...。帽子に手をやり, 振りかぶり, 投げました。ロドリゲス, サードフライを打ち上げて, これで, 終わり, ...ゲームセット! インドゥストリアルチームの劇的な勝利です!」



【写真2】Santiago de Cuba の野球場

言葉を求めて。外来語

野球用語はスペイン語と英語のチャンポンです。先のアナウンサーの中継のなかでも次のように2つの言語が競合しています。

スペイン語	英語
batear 「バットを振る」	strike 「ストライク」
cuenta 「カウント」	box 「(バッター)ボックス」
bola 「ボール」	home 「ホーム(ベース)」
lomita 「マウンド」	fly 「フライ」
seña 「サイン」	
lanzamiento 「投球, ピッチング」	
tercera base 「サードベース」	
juego 「試合, ゲーム」	
pelota 「野球」	
equipo 「チーム」	

このスペイン語対英語の試合は今回は8対3でスペイン語の勝ちとなりましたが、それでも英語は負けてはいません。

- out 「アウト」
- average 「アベレージ」
- manager 「監督」

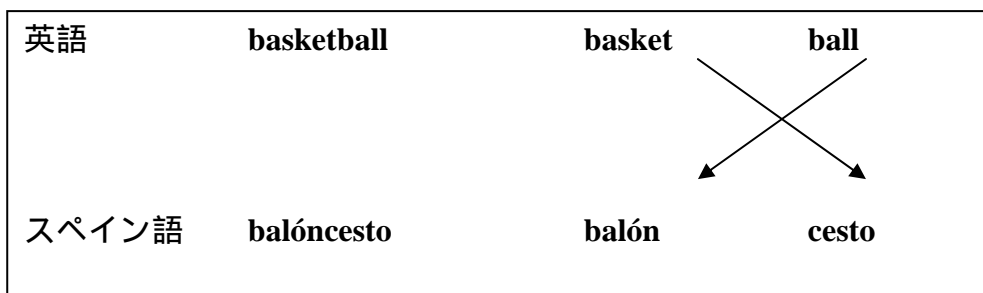
など、いたるところで使われています。そもそも「野球」もスペイン語の **pelota** と英語の **béisbol** が張り合っています。...と、ここまで書きながら気がついたことがあります。なんと日本語に訳していたつもりの野球用語のほとんどが実は英語だったということです。英語など外国語から借り入れた語を *extranjerismo* (「外来語」) と呼びます。

外来語の中には、形がスペイン語に同化して、見かけだけでは外来語とは見えない語もあります。たとえば、「コンピュータ」は 1 で見たように、

- ラテンアメリカでは... **computador(a)**
- スペインでは... **ordenador**

と呼びますが、それぞれ英語の *computer* とフランス語の *ordinateur* に由来し、それぞれ近い国の言語を借用しています。英語からの外来語は *anglicismo*、フランスからの外来語は *galicismo* と言います。

バスケットボールは、スペイン語で **baloncesto** と言いますが、これも一種の外来語です。なぜなら、「バスケット」*basket* と「ボール」(*ball*)を、それぞれ *cesto*「かご・バスケット」と *balón*「ボール」というスペイン語に置き換えた言葉だからです。このような語を「翻訳借用語」*calco* と呼びます。



私たちの「言葉を求めて」の旅では、スペイン語以外の言語も無視できません。そこに言葉と文化のダイナミックな交渉が見られるからです。



【写真3】bicicleta「自転車」+ taxi「タクシー」= bicitaxi

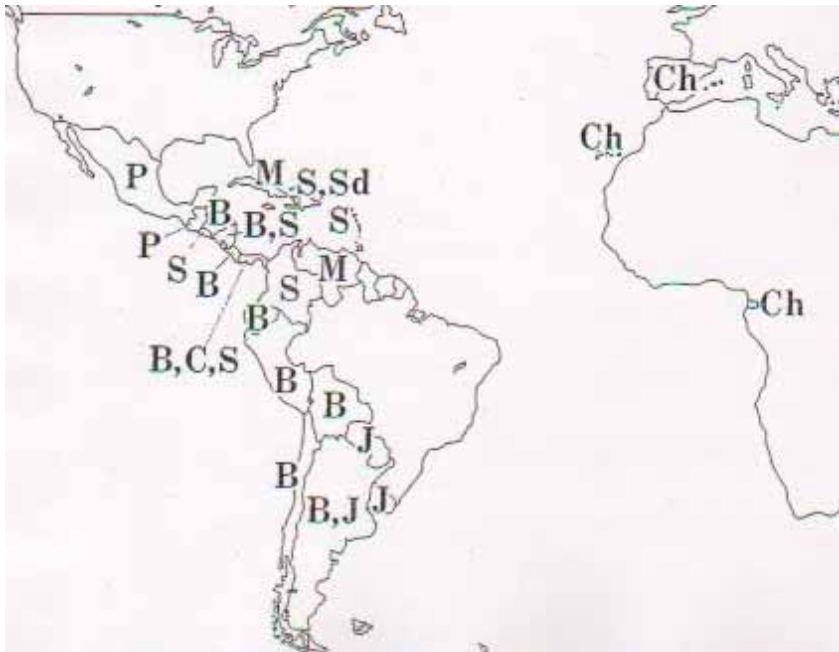
言葉の広がり...「スポーツウェア」

現代のスポーツ(deporte)には実にさまざまな種目があり,オリンピック大会(Juegos Olímpicos)などの国際的な行事の報道を見ると,どんどん新しい言葉が生まれていることがわかります。スペイン語の deporte も英語の sport も,ラテン語の DEPORTARE「気晴らしをする」に由来するので,語源にもとづくスポーツの目的は競って勝つことではなくて,優雅に楽しむことです。どこの国の日常生活でも,休日に公園や運動場を散歩すると,色鮮やかなスポーツウェアを身につけて健康を楽しんでいる様子が見られますが,これがスポーツの本来の姿だと言えるでしょう。



【写真4】大切に使われている旧式のオープンカー

「スポーツウェア」はスペインや赤道ギニアではフランス語からの外来語 **chandal** が使われます（【地図】では Ch）。ラテンアメリカでは **buzo**（B: ホンジュラス, ニカラグア, コスタリカ, パナマ, エクアドル, ペルー, ボリビア, チリ, アルゼンチン）, **calentador**（C: パナマ）, **jogging**（J: パラグアイ, ウルグアイ, アルゼンチン）, **mono**（M: キューバ, ベネズエラ）, **pants**（P: メキシコ, グアテマラ）, **sudadera**（S: ドミニカ共和国, プエルトリコ, ニカラグア, エルサルバドル, パナマ, コロンビア）, **sudador**（ドミニカ共和国）などがあり, 他にも **conjunto de gimnasia**, **conjunto deportivo**, **equipo de gimnasia**, **equipo deportivo**, **traje deportivo**, **ropa sport**, **traje sport** などさまざまな呼び方があります。



【地図】「スポーツウェア」

【課題 2a】キューバ・スペイン語のとくに語彙面の歴史的背景として, アフリカ西海岸地方から強制的に連行された黒人奴隷の言語の影響が重要である(Lipski 1996, p.253)。参考文献によって下記のテーマ(*)について調べ考察しなさい。

* ラテンアメリカの民族の人口比, 奴隷貿易, 奴隷の出自, 砂糖産業と奴隷, 解放

された奴隷, 奴隷制の廃止, 「アフリカ性」(africanismo), アフロ・キューバ運動の文学。

[課題 2b] Lipsky (1994: 260)が挙げる Cuba の特徴語彙の中からアフリカ起源の語と思われる 3 語について Ortiz (1924, 1990. s.v.)は次のように記述している。これを読み, 語形と意味の面で気づいたことを書きなさい。

congrí m. En la región oriental se llama así al plato que más comúnmente decimos en toda Cuba *moros y cristianos*, o sea “frijoles negros guisados y revueltos con arroz blanco”. Lo negro de aquéllos y lo blanco de éste motivaron esta graciosa locución. *Cogrí* es de origen africano, la voz y acaso hasta el guiso; pero no podemos demostrarlo.

bitongo, ga adj. Mimado // Tonto, bobo. Infeliz. Ú. t. c. s. “Es un niño *bitongo*.” “Es un *bitongo*.” (...). Por la terminación *ngo*, parece voz africana. Este sufijo *ng-a* o *ng-o* es muy frecuente en Cuba, en voces que, aun siendo algunas castellanas, o cuando menos como andalucismos, parecen proceder de las africanas por esa terminación cuando no por sus raíces. Acaso se pueda observar un acoplamiento filológico afrohispano; una raíz hispana y una desinencia probablemente africana, que da cierto sentido despectivo a la palabra. *Bitongo*, significa en el Níger “niño no nacido o hachizado”, algo así como “feto” o “sietemesino”, “niño defectuoso” y *bitunga* “un amuleto para el mismo”. (...)

jimagua adj. Gemelo, mellizo. // Aplícase a las frutas que por rareza nacen unidas. (...) Actualmente, úsase casi siempre en Cuba, donde rara vez se oye decir “gemelo”, ni “mellizo”. Los negros emplearon el vocablo para significar dos ídolos muy venerados en los altares de la brujería afrocubana. El vocablo parece que se originó en el Congo. Allí *jimagua* se dice *nxima* o *njimba*, nombre que conserva el primero de los mellizos, y se le dice, además *nzumi* al segundogénito. Aquel vocablo a su vez derivase de *jimi*, “preñez”.

【参考文献】

- 石塚道子編。1991. 『カリブ海世界』世界思想社。とくに第2章「奴隷たちの世界」
(長嶋佳子)。
- Franco, Jean. 1970. *The Modern Culture of Latin America*, Penguin Books, 吉田秀
太郎訳『ラテン・アメリカ - 文化と文学』新世界社 1974 とくに p.140-151.
- Lipski, John M. 1994. *Latin American Spanish*. London, Longman, pp.3-33; *El
Español de América*, Madrid, Cátedra (trad. Silvia Iglesias Recuero), 1996. とく
に Cap. XII..
- López Morales, Humberto. 1992. *El Español del Caribe*. Madrid. Mapfre.
- 増田義郎。1989. 『略奪の海カリブ - もうひとつのラテン・アメリカ史』岩波書店。
- Mellafe, Rolando. 1973. *Breve Historia de la Esclavitud Negra en América Latina*.
1973. Ediciones SEP Setentas, México. 清水透訳。1979. 『ラテンアメリカと奴隷
制』岩波書店。
- Ortiz, Fernando. 1924. *Glosario de Afronegrismos*. reed. 1990. Editorial de Ciencias
Sociales, La Habana.
- 大貫良夫編。1984. 『民族の世界史 13. 民族交錯のアメリカ大陸』とくに, 第2部第3
章(古谷嘉章)。
- Williams, Eric. 1970. *From Columbus to Castro. The History of the Caribbean
1492-1969*. New York, Harper & Row. 川北稔訳。1978. 『コロンブスからカスト
ロまで - カリブ海域史』岩波書店。

FIN